

講義名	対)教養特講 (プレゼンテーション技法入門)			
担当教員	大島 淑恵			
開講期・曜日・時限	前期 水曜日 2時限	授業形態	講義	
履修開始年次	1年生	単位数	2	備考

**主題と概要**

グローバル化が加速する近年において、ビジネスシーンや社会生活の中で多くの情報を扱いながら、企画や提案の理解を他者に求める機会が日常的に存在する。プレゼンテーションとはコミュニケーションの一つであり、目的を達成するために、相手に意思決定や行動を促すことが必要である。そのため、プレゼンテーションの意義を理解し、企画と設計から相手への情報提供による働きかけができるように、実践的な知識と技術を身に付ける。

大学1年生の教養科目である「自己発見とキャリア開発」から「目標設定スライド」の作成に始まり、演習での発表や、社会連携・社会共創活動における発表など、「プレゼンテーション」の機会は多い。この科目では1年生を対象に、より実践的に体系的で幅広いプレゼンテーション技法の基礎や考え方を学ぶ。

**到達目標**

1. プレゼンテーションの意義を理解し、実践的な知識と技術を身に付ける。
2. 相手に理解を得る技法を身に付け、伝える力を向上させる。
3. 問題解決やPDCAサイクルの思考を用いたプレゼンテーションで実践できる。
4. プレゼンテーションの原則から、テーマに沿った準備と発表ができる。
5. 何故そのテーマを選んだのか、理由を、どのように相手に伝えるのか、聞き手を主体としたプレゼンテーションができる。
6. 目的のために相手に働きかけることができる。

**提出課題**

- ・授業内での個人及びグループワークによる課題を提出。
- ・プレゼンテーション発表資料の提出。

**課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック**

- ・提出課題を評価し返却する。
- ・プレゼンテーション発表後に講評する。

**評価の基準**

- ・提出課題 (40%)
- ・授業への積極的参加度 (30%)
- ・プレゼンテーション課題資料 (10%)
- ・プレゼンテーション発表 (20%)

**履修にあたっての注意・助言他**

- ・授業の到達目標を達成するには、継続的な授業参加が必要。
- ・個人やグループでの演習が中心となるため、積極的な授業参加が望ましい。
- ・新聞やニュースなどの時事に関心を持ち、日頃から気づきをメモするなどしてプレゼンテーションに活かすよう心がけること。

教科書					

**プリント資料及び参考文献**

授業毎に資料配布および参考文献等を提示

**授業計画**

1. 授業の概要と評価方法の説明
2. プレゼンテーションの概要と基本：構想・企画・立案について、情報収集と取捨選択。
3. プレゼンテーションの構成：ストーリー構成・ストーリーの組み立てから展開方法。
4. プレゼンテーションの設計：報告書や企画書等、簡潔に見やすく伝える・用紙1枚で表現する。
5. プレゼンテーションの展開：ストーリー展開(グループワーク)
6. プレゼンテーションの表現：魅せる資料の作成について、グラフやチャート図について。
7. プレゼンテーションの情報：情報収集の仕方から取捨選択・データの見える化。
8. プレゼンテーションの図解：文章をチャートで表現する。一目でわかりやすい表現とは。
9. プレゼンテーションの資料作成：発表方法と資料作成、シナリオ作成。
10. プレゼンテーションの作成演習：(グループワーク)
11. プレゼンテーション発表準備：バーバル・ノンバーバルの伝え方、効果的な発表方法
12. プレゼンテーション発表技法：質問の仕方、受け方の基本、リハーサル
13. プレゼンテーションの実践：(グループワーク)
14. プレゼンテーションの振り返り：(グループワーク)
15. まとめ

この授業計画はシラバス執筆時のものであり、受講生数によっては、変更する可能性がある。

**授業形態(アクティブ・ラーニング)**

ア：PBL(課題解決型学習)	<input type="radio"/>	イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/>	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/>	カ：実習、フィールドワーク
ク：その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)		

**準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間**

- ・授業時に次回までの準備学修について説明する。(復習および課題準備に30分程度)
- ・プレゼンテーション資料作成および発表に向けて準備が必要となるが、予め授業内で説明する。

**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**

プレゼンテーションとはコミュニケーションの一つであり、日常の中で気づかないうちに行われている。自ら考えて発信し行動することは、生涯を通じて求められるスキルともいえる。プレゼンテーション技法入門では、個々の情報収集からグループでの情報共有を経て、グループ内の意思形成を図りながら、課題に取り組み、そのため、役割の認識や個人が考えて行動することが求められ、他者との協力が必要となる。それには専断を促進してみることも求められることとなる。これらの経験を通じて、自ら考えて行動するだけでなく、対話を通じて他者へ有効な働きかけができるようになる。それは、問題を解決に導くために必要な資質といえる。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

- ・演習を中心とした授業となるため、コミュニケーションを図りながら進行する。
- ・プレゼンテーションの設計から発表に至るまで、論理的思考による言語化と表現を身に付けるよう、常に協働を心がけて取り組む。

**実務経験の有無及び活用**

- 「実務経験あり」
- ・オフィス機器メーカーにて、企業へ販売促進のためのプレゼンテーションを実施。
- ・社内の業務改善や新規企画や企業への業務改善を提案。
- ・勤務先にて、企画立案・改善提案に携わる。
- ・パソコン教室経営および企画・運営に従事。

**備考**

この授業計画はシラバス執筆時のものであり、受講生数や状況によっては、変更する可能性がある。一時的に通学困難になった場合は対面授業の中で対応を継続し、オンデマンド授業へ移動はしない。通学困難者に対し、RYOMA Portal を通じて実施回に応じた課題を提示するため、授業資料と課題の確認を怠らないこと。